

株式会社野村総合研究所



ASEAN地域におけるSCOPE3データ共有ソリューション（NRI-CTS）の導入実証

本事業の目的

本事業は、タイで大型トラックを用いた輸送事業者が搭載義務のあるGPS端末とこれを通じて取得できる輸送距離等のデータを有効活用し、この膨大なデータをNRIのサービス(NRI-CTS)に取り込み、CO2排出量の計算・報告作業や、事業者間で輸送を再委託する場合の取引先間でのCO2排出量のダブルカウントをしないための処理作業の自動化に向けた取り組みである。

現地企業や政府との協力・連携

現地パートナーは、SCG LOGISTICS MANAGEMENT CO., LTD.である。協力・連携の内容は、NRI-CTS（カーボントレーシングシステム）とSCG Logistics Management社（SCGLM社）のConnectedサービスのデータを活用したトラックのCO2排出量(Scope3)の見える化である。

SCG Connectedサービス



Co2排出量(Scope3)の見える化

NRI-CTS



現地の経済・社会課題

多くの日系企業が進出し、ASEANにおける陸送ハブとして東西南北回廊を中心に経済成長を見据えるタイでは、バイオ・循環型・グリーン（BCG）経済モデルに基づく、2050年の「カーボンニュートラル」の達成を計画している。

今後増加が見込まれる陸送のCO2排出量の削減に向けては、輸送事業者による協力が必要不可欠であるものの、輸送事業者には中小・零細企業が多く、そのための負担は小さくない。高度な専門知識を元に膨大なデータを集め、CO2排出量を計算し、荷主等の委託元に報告する作業には多大な労力と費用を要するためである。更には、事業者間で輸送を再委託する場合も少なくなく、取引先間でのCO2排出量のダブルカウントをしないための処理作業を行うとなると、そのための計算やデータの共有が必要となるため、更に難題となる。

タイでは交通事故を起因とした10万人あたりの死亡率は世界的に高い。そのためタイ陸運局（DLT）は、2016年よりバス、トラック等の一部商用車を対象にGPS端末の搭載を義務付けした。輸送事業者は、この端末とサービスを購入し、トラック運転手の運転速度、距離等を計算し、タイ陸運局（DLT）にデータを提供・報告している。また安全運転による交通事故の削減だけでなく、エコ運転も促し、CO2の削減にも役立てている。



株式会社野村総合研究所

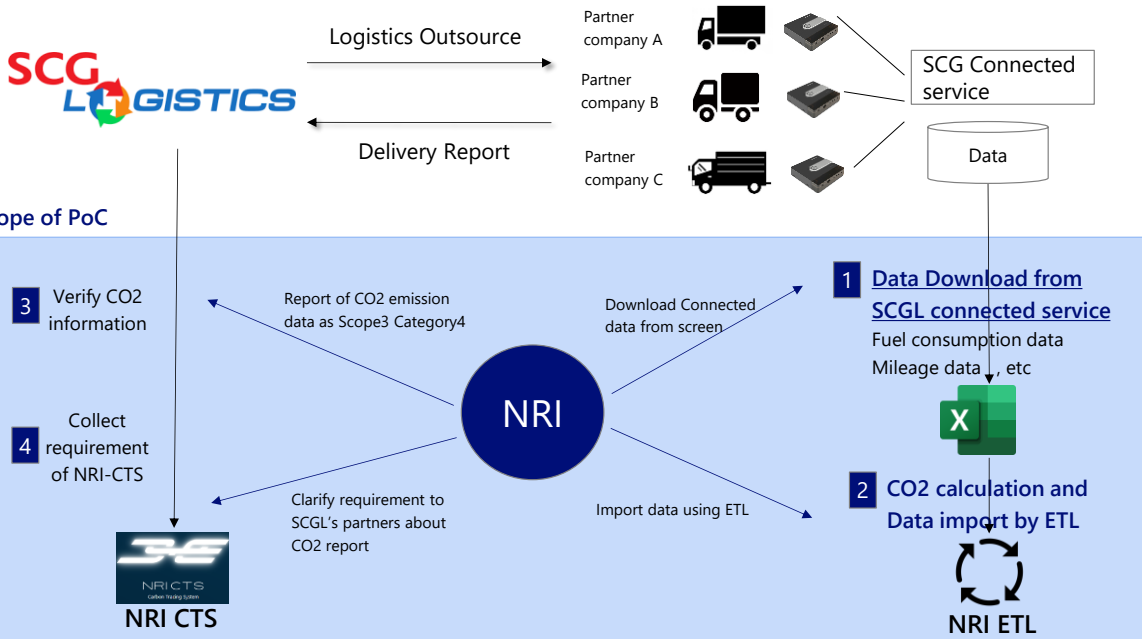
ASEAN地域におけるSCOPE3データ共有ソリューション（NRI-CTS）の導入実証

実証期間

2022年9月～12月

実証した内容

トラックのCO2排出量が見える化するために、NRIがSCGコネクテッドサービスからNRI-CTSにデータを取り込み、SCGLがNRI-CTS上で結果とCO2レポートを検証できるようにした。



事業の成果/今後の予定

【成果および考察】

CO2の計算方法について日本政府の物流に関するCO2算定ガイドラインに則って計算ロジックを実装した。計算方法について、燃費法と燃料法で実装したが、将来的に混載貨物の場合の配賦などをやる場合にTMS内の実績データとの連携等が必要になるため、これらは今後の課題として認識した。今後、データの充実に伴い、継続的に改善していく必要がある。

データの可視化については、グループごとに排出量情報の可視化ができています。

【事業終了後の進捗】

2023年3月にISO14083が公表されており、現在、WBCSD PACTとSmart Freight Centreが物流分野のCO2排出量のデータ交換技術仕様を作成しており、NRI-CTSもISO14083を踏まえた燃料法に向けた研究開発を継続している。

【今後の予定】

NRI-CTSは、現在、Ouranos EcoSystemの活動に参加しており、欧州電池規則への対応を実施している。欧州電池規則は物流の排出量を算定する必要があること、今後、欧州電池規則対応がタイをはじめとする東南アジアに波及することから、その動向にあわせて事業展開を実施する予定である。